

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年10月1日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2771501083
法人名	医療法人 浩治会
事業所名	グループホームゆめの里
所在地	大阪市東成区大今里西2丁目17番16号 (電話) 06-6975-3081
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 19年 9月 14日

### 【情報提供票より】(平成 19年 8月 10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	9人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.75人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	7階建ての	6階 ~	6階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000~84,000円	その他の経費(月額)	39,000円
敷金	有( ) 円 無( )		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (360,000円)	有りの場合 償却の有無	有( ) / 無
食材料費	朝食	350円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 250円
	または1日当たり 1,500円		

#### (4) 利用者の概要 (平成 19年 8月 10日現在)

利用者人数	12名	男性	4名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	93歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)野中会東成病院、(医)公道会病院、(医)大道会大道病院、下地歯科
---------	-------------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営するグループホームで、介護老人保健施設、デイケアセンターが併設されています。理念として「誰もが、ありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。家庭と変わらない生活をするができる施設にします。安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくります。人間としての尊厳を守るケアを行ないます。」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らせるよう支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るくやさしい雰囲気です。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価での課題についての改善が進み、介護計画のアセスメント用紙やファイリングの仕方を見直して職員間の情報の共有化が進んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、管理者が中心になって案を作り、職員の意見も聞きながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議では運営状況や生活ぶり、外部評価の結果の説明をし、利用者が参加できる食事づくりや利用者毎の個別の外出計画などの課題について話し合っています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 週に1回は訪れる家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、行事についても写真とともに報告しています。利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度電話で家族へ報告をしています。月々の請求時には近況を伝える管理者の手紙と写真、3ヶ月毎の法人の「たより」を同封しています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応するとともに、ご意見箱もおいて家族の意見を表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は地元の商店街で米や野菜、おやつのお買物をし、町内会のふれあい喫茶や盆踊りにも参加して地元の人々と交流しています。中学生の体験学習も受け入れています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「誰もが、ありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。家庭と変わらない生活をするができる施設にします。安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくります。人間としての尊厳を守るケアを行ないます。」を掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らしていけるよう支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化してホーム内に掲示されています。採用時研修や月例のミーティング、毎朝のミーティングで、管理者と職員は理念を共有すべく話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	利用者は地元の商店街で米や野菜、おやつの買物をし、町内会のふれあい喫茶や盆踊りにも参加して地元の人々と交流しています。中学生の体験学習も受け入れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の指摘事項についての改善が進み、介護計画のアセスメント用紙やファイリングの仕方を見直して職員間の情報の共有が進んでいます。自己評価は、管理者が中心になって案を作り、職員の意見も聞きながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議では運営状況や生活ぶり、外部評価の結果の説明をし、利用者が参加できる食事づくりや利用者毎の個別の外出計画などの課題について話し合っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者と行政や地域包括支援センターの担当との意見交換や相談の機会は多く、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	週に1回は訪れる家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、行事についても写真とともに報告しています。利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度電話で家族へ報告をしています。月々の請求時には近況を伝える管理者の手紙と写真、3ヶ月毎の法人の「たより」を同封しています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族の確認を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応するとともに、ご意見箱もおいて家族の意見を表せる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居する利用者の増加にあわせ、職員の新規採用を行い、離職した職員の補充も行っておりますが、採用時研修やトレーニングの強化で利用者への影響は最小限に抑えられています。法人内の定期異動は実施していません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各事業を代表する職員で構成する「教育委員会」で、テーマを決め年間の研修計画が立案されています。ホームの職員は随時、法人内研修会や外部研修会に参加が可能です。伝達研修についてもこの仕組みの中で複数回行われ、ホームの職員も全員が参加することができ、記録も残しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の地域包括支援センターの声かけで、地域のグループホームは月1回の交流や意見交換を実施し、職員の相互の実習受け入れも行ってサービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が家庭訪問を実施し、利用者や家族のホームの見学等を通じて馴染みの関係を作り、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者が孤立することなく安心して日々の生活を送れるよう、郷土料理の先生だった利用者、元画家の利用者、家事が得意な利用者等がそれぞれ得意なことをホーム内で役割を持ち、生き活きと活躍できるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日2回午前と午後に散歩する利用者、晩酌を楽しむ利用者、馴染みの美容院へ家族と出かける利用者等がいます。利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿い、生き活きと生活を楽しめるように利用者の生活を支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや、心身の状況からアセスメントを行い、医師の意見、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成し、家族の同意も得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。現在の生活の状況を反映した「できること・できないこと」シートを作成し、援助項目について毎日のモニタリングの結果を集約し、カンファレンスを経て3ヶ月毎の介護計画の見直しにつなげています。この1年をかけて独自の様式と介護計画の見直し方法を確立した努力は顕著です。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は併設の介護老人保健施設での行事に参加できるよう、職員が支援しています。また、必要により通院介助も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、以前からのかかりつけ医師（医療機関）に引き続き医療を受けている利用者もいます。協力病院と連携し夜間や急変時の対応についての体制整備も整っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象となる利用者はいませんが、ホームとしては将来看取りを実施する予定で準備を進めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者のペースに合わせ、食事の時間をずらしたり、起床や就寝の時間にゆとりをもって対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常、朝食と夕食は併設の老健施設の厨房から調理済みの食事を取り寄せ、昼は入手した食材をホームで調理しています。週に1回は利用者の希望を聞きながら作った献立表に添い、買物、下ごしらえ、調理、後片付けにいたる一連の流れを利用者も参加しながら楽しんでいます。月に1回は出前寿司も楽しんでいます。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に3回午後から、いつでもゆっくり寛いだ入浴ができます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	多くの利用者は一日の生活の中でそれぞれの役割を見つけ、張り合いのある生活を送っています。その他、キーボードやリコーダーに合わせ歌を歌ったり、テーブル卓球をしたり、職員と囲碁や将棋をしたり、テレビでスポーツ観戦をしたり、ベランダの花や野菜に水遣りをしたりして過ごす利用者もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩や地元の商店街・スーパーへの買物に出かけ、季節によって博物館や動物園、桜見物や菖蒲園に出かけています。利用者一人ひとりに個別の外出支援も実施しており、美術展(店)や、漫才を観に行ったり、好みの喫茶店に出かけています。また今後はスポーツ観戦に出かける計画をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットのドアに日中の時間帯鍵はかかっていません。職員の見守りで利用者は自由に外出ができるようになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルが作成され、年2回消防署の指導で消防避難訓練を実施しています。食料と水の備蓄については冷蔵庫や収納庫に在庫がありますが、同一建物内にある老健の厨房内にある在庫を考慮すれば最低限の量は確保されています。しかしホーム独自の非常・災害時のための食料品と水の備蓄について「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成しておくことが望まれます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を把握し記録をとっています。水分摂取量については管理の必要な利用者について記録をとっています。栄養バランスについては厨房の栄養士からアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりには季節の花、観葉植物、手作り作品、絵画、行事写真、職員の顔写真が飾られ訪ねやすい雰囲気になっています。ホームは建物の6階にあり、窓やベランダからは町を展望でき、オープンで明るいリビング兼ダイニングルームがあります。部屋には新聞や雑誌、将棋盤、キーボード、レクリエーション用具がさりげなく置いてあり、ベランダには花や菜園もあって落ち着いた雰囲気となっています。リビング内にはソファや椅子も置かれており居場所も確保されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームはベッド、洋服ダンス、椅子、テレビを提供していますが、居室には利用者が持ち込んだ整理タンス、収納ケース、和机、椅子、飾り棚、仏壇、花、装飾品、家族の写真、ラジオ、家族と連絡を取る携帯電話など使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、利用者が安心して過ごせる場所となっています。		